

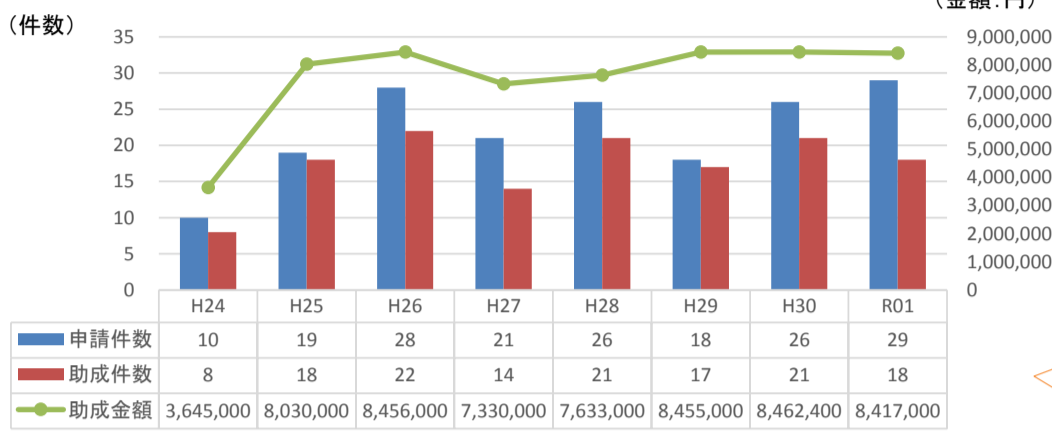
○文化・芸術の振興(総合計画 施策30)

施策の目標は、「区民が文化・芸術に親しむ環境を整備するとともに、地域の中で多様な文化・芸術活動が行われ、地域ににぎわいが醸成されるよう取り組む」こととしています。

こうした「文化・芸術の振興」の推進に向けて、平成24年度以降、ソフト面では①文化芸術活動助成金と②日本フィル友好提携事業を軸に、ハード面では③杉並公会堂と④杉並芸術会館(座・高円寺)を起点に、区民が文化・芸術に親しむ機会を確保し、また自主的な活動の活性化を図ってきました。

この間における主な取組状況と実績は、以下のとおりです。

【①文化芸術活動助成金】



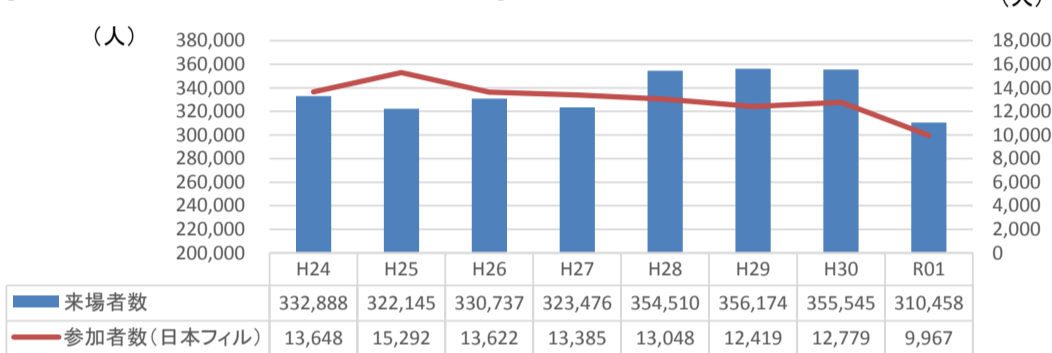
○区内で行われる文化・芸術活動事業に対して、文化・芸術振興審議会(平成24年3月設置)の審査を経て、年間20件程度、事業経費の一部を助成してきました。(別紙1参照)

○コロナ禍にある今年度には、感染症対策を講じながら実施する施設運営事業者と活動事業者の双方を支援することを通じて、区民が文化芸術を楽しむことできる環境の確保を図っています。(別紙2参照)

【参考】文化・芸術振興審議会答申(平成24年)を受けて、助成金の方針転換

(～平成24年度) 多様な文化・芸術活動に対して、幅広く助成
 改善
 (平成25年度～) ・助成を受けることではじめて達成できる項目や内容を充実できる活動へ重点を置いた助成へ
 ・次代を担う子どもたちを中心に地域と連携するような活動への助成へ

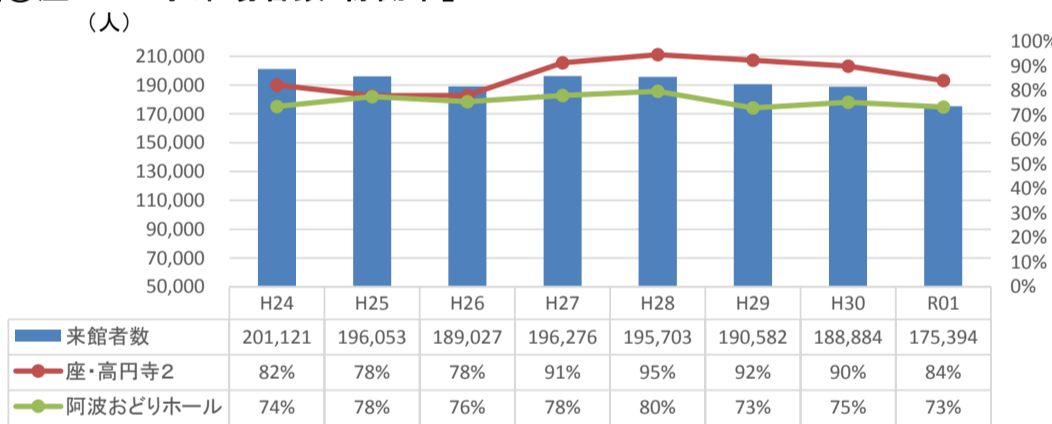
【②日本フィル友好提携事業参加者数・③杉並公会堂 来場者数】



○杉並公会堂を本拠地として活動する日本フィルハーモニー交響楽団と平成6年に友好提携を結び、区は公会堂利用料の一部を負担し、日本フィルは区役所ロビーコンサートや公開リハーサル、出張コンサート等、年間約40回の事業を実施しています。

○杉並公会堂は、PFI手法(民間事業者が施設の設計、建設、維持管理及び運営)を活用し、平成18年に本格的なクラシックコンサートホールとしてリニューアルオープンしました。大ホール(1,186席)・小ホール(190席)、スタジオ(5カ所)等を兼ね備え、良質な音楽に触れる機会(年間約25公演)を提供するとともに、文化活動としてもご利用いただいております、年間約34万人が来場しています。

【④座・高円寺 来場者数・稼働率】



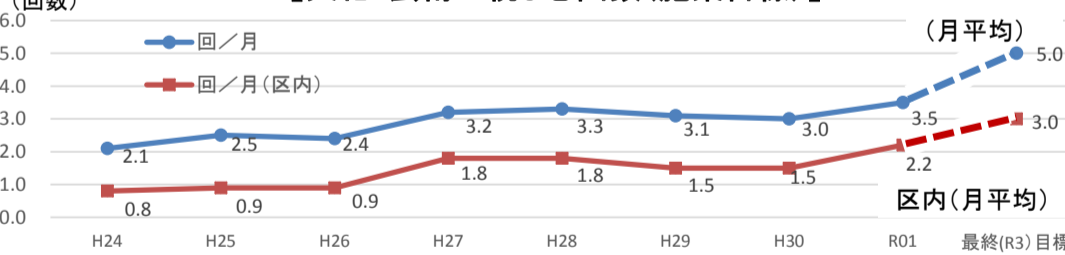
○区立杉並芸術会館(座・高円寺)は、地域に根ざした芸術文化活動の拠点として、平成21年5月に開館し、指定管理者(NPO法人劇場創造ネットワーク)の高い専門性や独自のノウハウを生かした運営を行っています。

○座・高円寺1(238席) 区のパートナーシップ団体である日本劇作家協会と連携し、質の高い演劇を中心とした舞台芸術(年間30公演)を提供するほか、区内小学生対象の演劇鑑賞体験等を実施しています。

○座・高円寺2(256席) 区民等の多様な文化活動や集会・発表会・講演会の場として貸し出しており、年平均90%の稼働率となっています。

○阿波おどりホール 杉並区を代表するイベントの一つである「高円寺阿波おどり」の練習や外国人向け体験等を実施する会場として、地域の個性と結び付いたホール運営を行っています。

【文化・芸術に親しむ回数(施策目標)】



《施策目標の状況と考察》

○上記①～④に示した取組を進めた結果、「区民一人当たりの文化・芸術に親しむ機会」は、月3.5回(平成24年比1.4回増)、そのうち区内における機会は月2.2回(平成24年比1.4回増)となり、区民が文化・芸術に親しむ環境は整備されつつあります。

○国の文化・芸術鑑賞に関する世論調査(令和2年3月)によると、ジャンル内訳は音楽31.9%(平成21年比7.7%増)、演劇4.7%(平成21年比5.8%減)となっています。このことは、杉並公会堂の来館者数が増加傾向にある一方、座・高円寺は減少傾向にあることと整合しています。

■文化芸術の振興に関する国の基本方針(H26年度策定)

- ①あらゆる人々が創作活動へ参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ②東京2020大会に向けての文化プログラム
- ③被災地から、地域の文化芸術の魅力を国内外へ発信

■文化芸術振興基本法改正(平成29年度公布)※一部抜粋

文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の継承、発展に活用することが重要

【今後の課題】

文化・芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会を形成することに寄与しています。ウィズコロナ・アフターコロナの生活様式が求められる中、引き続き、文化・芸術により生み出される様々な価値を生かして、これまで培われてきた伝統的な文化・芸術を継承・発展させるとともに、独創性のある新たな文化・芸術の創造を促進していくことが重要です。そのため、以下の課題認識に立った取組を進めていきます。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年2月以降、日本フィル友好提携の回数・参加者数や施設来館者数は減少しており、令和3年度以降もこうした傾向が一定程度続くと見込まれます。このように文化活動が制約される中、オンライン配信やバーチャル空間等の「ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)」の活用も促進しつつ、引き続き、区民が安心して文化・芸術に親しむ場と機会の確保を図っていきます。

○文化・芸術鑑賞に関する世論調査からも、文化・芸術の幅広いジャンルを好む傾向があり、新たな需要を掘り起こし、文化・芸術が区民にとってより身近なものとなるよう、一層の研究・工夫が求められます。また、座・高円寺の来館者の約6割の方が高円寺地域で買い物する(来館者調査:令和元年度)等、文化・芸術の振興は、区民の心を豊かにするだけでなく、来場者等による地域のにぎわい創出など、地域振興の側面からも重要であるため、今後は、産業や観光、まちづくり分野等との連携・協力をより一層推進していきます。